

ボランティア団体活動実態アンケート結果

I 貴団体の概要・活動状況についてお聞きします。

問1) 貴団体の概要について下記の欄へご記入ください。

活動分野（主なもの3つ以内に○を付けてください。）

- | | | | | |
|--------------------------------|----------------------------|------------------|----------|----------|
| 1. 福祉 | 2. 保健、医療 | 3. 社会教育の推進 | 4. まちづくり | 5. 観光の振興 |
| 6. 農村漁村・中山間地の振興 | 7. 文化・芸術・スポーツの振興 | 8. 環境保全 | | |
| 9. 災害救援 | 10. 地域安全 | 11. 人権の擁護・平和の推進 | 12. 国際協力 | |
| 13. 男女共同参画 | 14. 子どもの健全育成 | 15. 情報化社会の発展 | | |
| 16. 科学技術の振興 | 17. 経済活動の活性化 | 18. 職業能力の開発・雇用促進 | | |
| 19. 消費者の保護 | 20. 前各号に掲げる活動を行う団体への助言・援助等 | | | |
| 21. 前各号に掲げる活動に準ずる都道府県の条例で定める活動 | | | | |

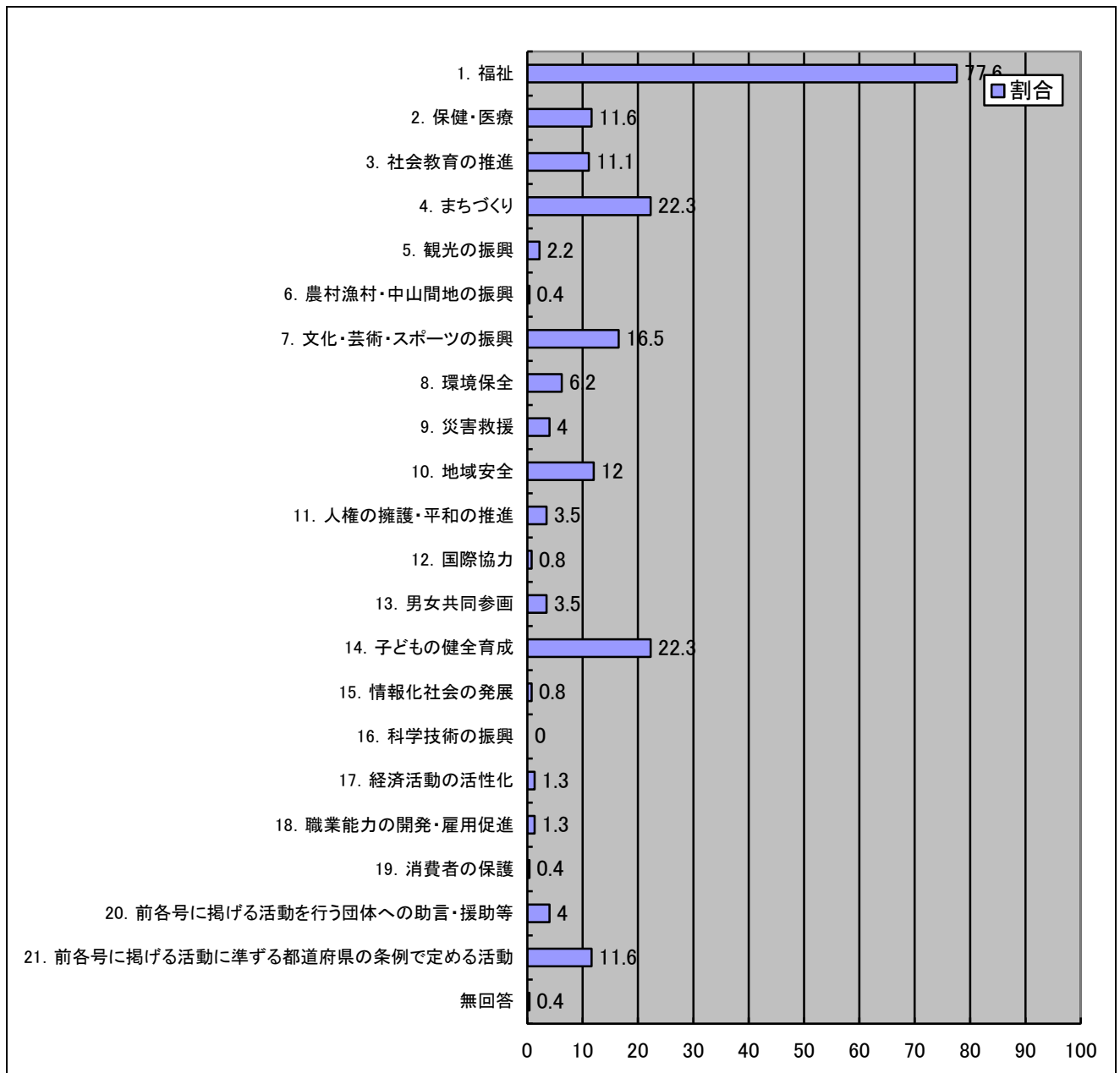
回答のあったボランティア団体の内、活動分野は、「福祉」(77.6%)が最も多く、次いで「まちづくり」(22.3%)「子どもの健全育成」(22.3%)、が同数となっていた。表1、図1参照

(表1: 活動分野)

※母数: 224

	件数	割合(%)
1 福祉	174	77.6%
2 保健、医療	26	11.6%
3 社会教育の推進	25	11.1%
4 まちづくり	50	22.3%
5 観光の振興	5	2.2%
6 農村漁村・中山間地の振興	1	0.4%
7 文化・芸術・スポーツの振興	37	16.5%
8 環境保全	14	6.2%
9 災害救援	9	4.0%
10 地域安全	27	12.0%
11 人権の擁護・平和の推進	8	3.5%
12 国際協力	2	0.8%
13 男女共同参画	8	3.5%
14 子どもの健全育成	50	22.3%
15 情報化社会の発展	2	0.8%
16 科学技術の振興	0	0%
17 経済活動の活性化	3	1.3%
18 職業能力の開発・雇用促進	3	1.3%
19 消費者の保護	1	0.4%
20 前各号に掲げる活動を行う団体への助言・援助等	9	4.0%
21 前各号に掲げる活動に準ずる都道府県の条例で定める活動	26	11.6%
無回答	1	0.4%

(図1：活動分野)



問2) 貴団体の活動状況について

(1) 活動であてはまる項目に○を付けてください。

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 地域や社会のために行う開かれた活動 | 2. 趣味やスポーツなど自分や仲間内に対する活動 |
| 3. どちらともいえない | |

活動の領域としては、「地域や社会のために行う開かれた活動」(90.6%)が9割を占めており、「趣味やスポーツなど自分や仲間内に対する活動」と両方を回答する団体も見られた。表2、図2参照

(表2：活動領域)

※母数：224

		件数	割合
1	地域や社会のために行う開かれた活動	203	90.6%
2	趣味やスポーツなど自分や仲間内に対する活動	26	11.6%
3	どちらともいえない	11	4.9%
	無回答	3	1.3%

(2) 上記 (1) の会員の年齢層で多い項目 2 つ以内に○を付けてください

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代以上

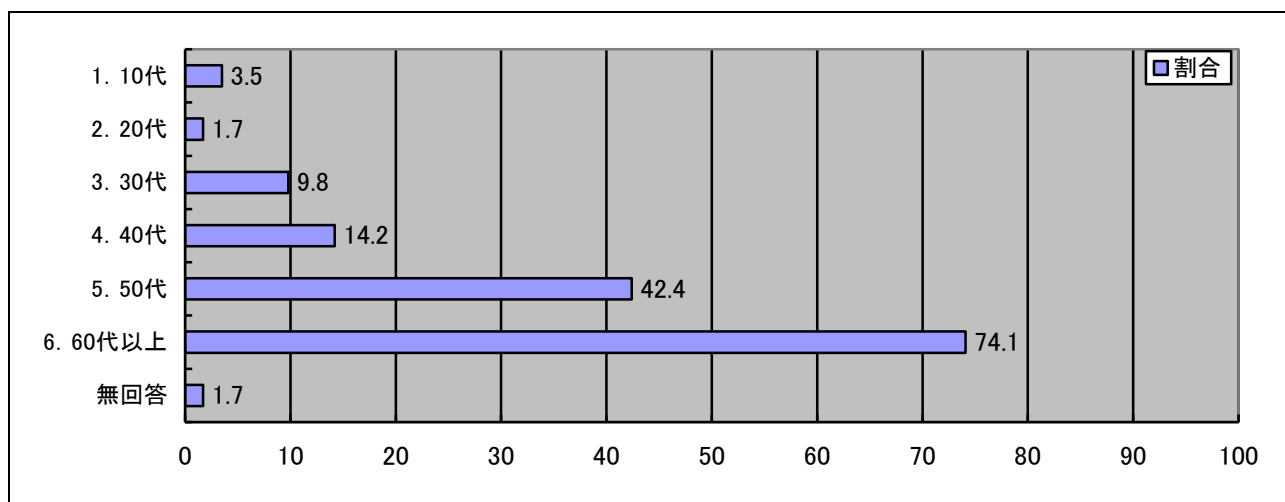
会員の年齢層は、「60代以上」(74.1%)が最も多く、次いで「50代」(42.4%)、「40代」(14.2%)となっている。表6、図6参照

(表6：年齢層)

母数 224

		件数	割合
1	10代	8	3.5%
2	20代	4	1.7%
3	30代	22	9.8%
4	40代	32	14.2%
5	50代	95	42.4%
6	60代以上	166	74.1%
	無回答	4	1.7%

(図6：年齢層)



(3) 上記 (1) の会員の職業等で多い項目 3 つ以内に○を付けてください。

1. 会社員 2. 公務員・団体職員等 3. 専門的職業 (医師、看護師、弁護士、司法書士等)
 4. 自営業・経営者 5. パート・アルバイト 6. 家事従事者 (主婦等) 7. 退職者
 8. 学生 9. その他 ()

会員の職業としては、「家事従事者」(61.6%)と「退職者」(55.3%)が約5割と多く、その他として、農業従事者などが挙がっていた。表7、図7参照。

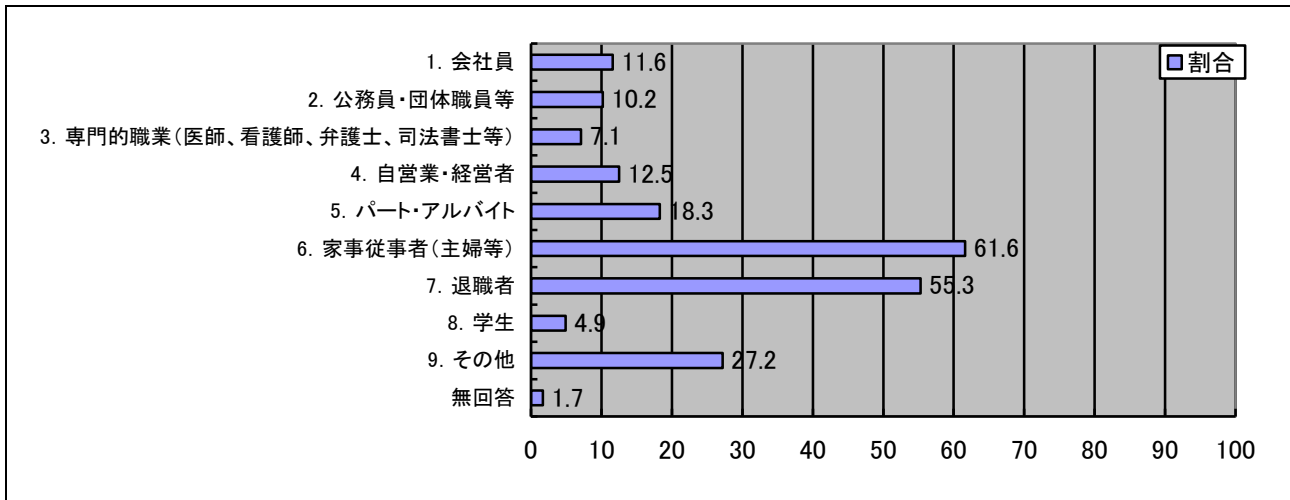
(表7：職業別)

母数 224

		件数	割合
1	会社員	26	11.6%
2	公務員・団体職員等	23	10.2%
3	専門的職業 (医師、看護師、弁護士、司法書士等)	16	7.1%
4	自営業・経営者	28	12.5%
5	パート・アルバイト	41	18.3%
6	家事従事者 (主婦等)	138	61.6%
7	退職者	124	55.3%

8	学生	11	4.9%
9	その他	61	27.2%
	無回答	4	1.7%

(図7：職業別)



II 貴団体の運営状況等についてお聞きします。

問1) 貴団体の主な収入源(活動資金)について

(1) 活動するにあたり経費(活動資金)を使っていますか

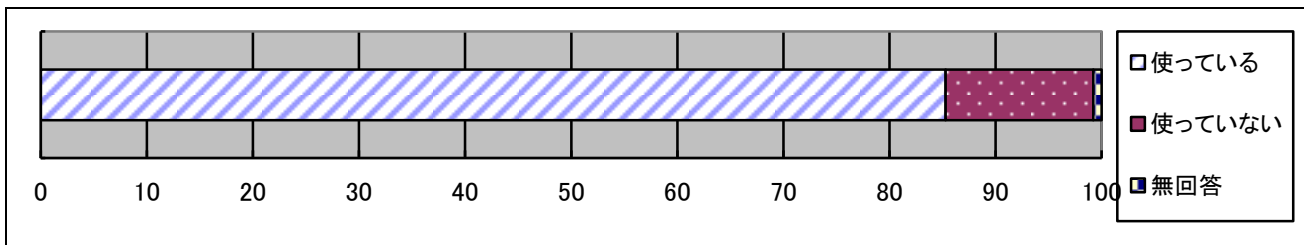
1. 使っている ⇒ (2)へ 2. 使っていない ⇒ 問2へ

活動に経費を要していると回答したのが、85.3%であった。表8、図8参照。

(表8：活動経費)

		件数	割合
1	使っている	191	85.3%
2	使っていない	31	13.9%
	無回答	2	0.8%
合計		224	100%

(図8：活動経費)



(3) 経費（活動資金）の現状について、あてはまる項目1つに○を付けてください。

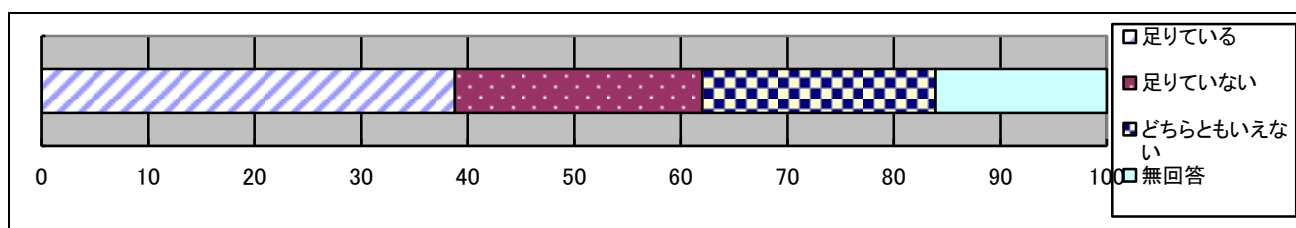
1. 足りている 2. 足りない 3. どちらともいえない

経費（活動資金）の現状としては、「足りている」（38.8%）が最も多いが、「足りていない」（23.2%）「どちらともいえない」（21.9%）ともに2割程度の回答があった。表10、図10参照。

(表10：経費の現状)

		件数	割合
1	足りている	87	38.8%
2	足りていない	52	23.2%
3	どちらともいえない	49	21.9%
	無回答	36	16.1%
合 計		224	100%

(図10：経費の現状)



問2) 活動拠点について

(1) 活動のための拠点はありますか。あてはまる項目1つに○を付けてください。

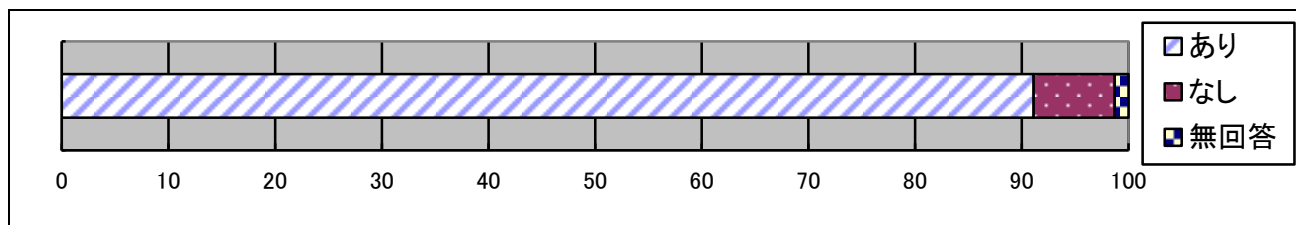
1. あり ⇒ (2) 〜 2. なし ⇒ (3) 〜

回答のあったボランティア団体の内、9割（91.1%）が活動拠点があるとの回答であった。表11、図11参照

(表11：事務所の有無)

		件数	割合
1	あり	204	91.1%
2	なし	17	7.6%
	無回答	3	1.3%
合 計		224	100%

(図11：事務所の有無)



(2) 上記で『あり』と回答した方のみにお聞きします。どのような場所を活動拠点としていますか。あてはまる項目1つに○を付けてください。

1. 活動メンバーや会員の個人宅 2. 活動メンバーや会員の勤務先 3. 福祉センター
4. 公民館 5. 役場 6. その他 ()

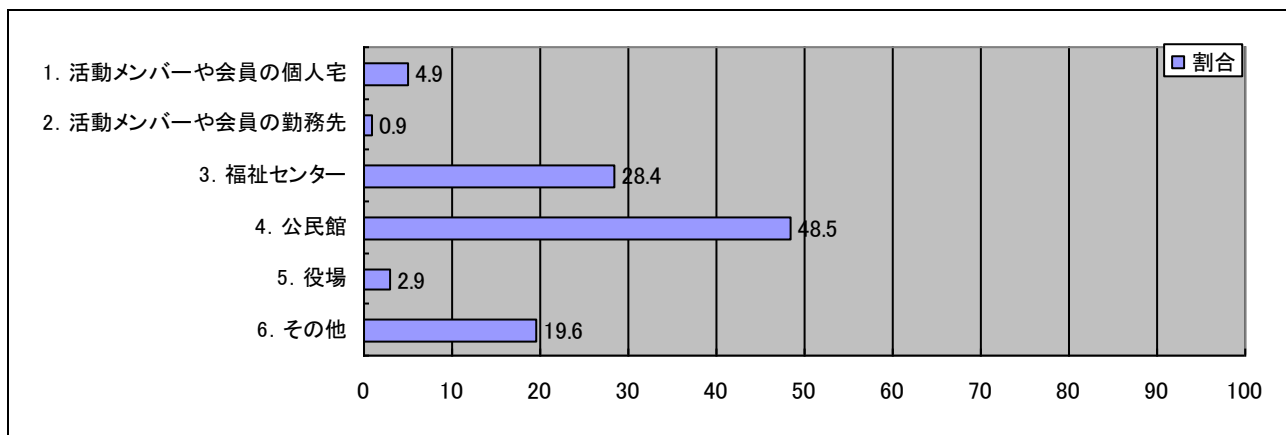
活動拠点があると回答したボランティア団体の内、「公民館」(48.5%)が最も多く、次いで「福祉センター」(28.4%)であった。その他の回答では、屋外などの活動場所を拠点と位置付けているところもあった。表 12、図 12 参照

(表 12 : 活動拠点)

母数 204

		件数	割合
1	活動メンバーや会員の個人宅	10	4.9%
2	活動メンバーや会員の勤務先	2	0.9%
3	福祉センター	58	28.4%
4	公民館	99	48.5%
5	役場	6	2.9%
6	その他	40	19.6%

(図 12 : 活動拠点)



(3) 上記で『なし』と回答した方のみにお聞きします。その理由について、あてはまる項目に○を付けてください。

1. 設置する資金がない 2. 設置に適した場所がない 3. 事務所に配置するメンバーがいない
4. 設置の必要性がない 5. その他 (具体的に)

活動拠点がないと回答したボランティア団体の理由として、すべての項目に2割程度の回答があった。

表 13、図 13 参照

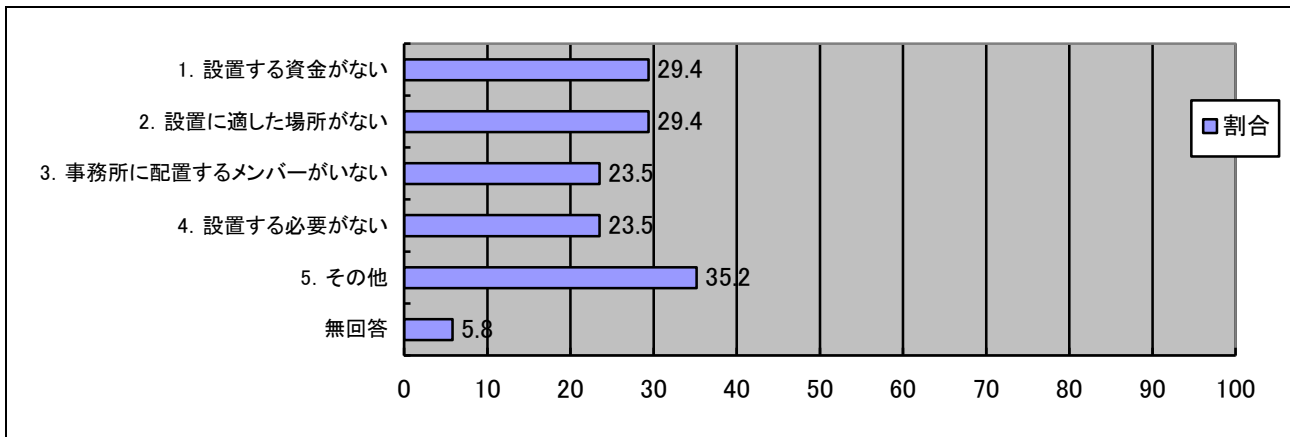
(表 13 : 事務所なしの理由)

母数 17

		件数	割合
1	設置する資金がない	5	29.4%
2	設置に適した場所がない	5	29.4%
3	事務所に配置するメンバーがいない	4	23.5%
4	設置する必要性がない	4	23.5%

5	その他	6	35.2%
	無回答	1	5.8%

(図 13 : 事務所なしの理由)



問 3) 活動上の課題等について

(1) 貴団体が活動上、特に困っていること、課題等は何ですか。あてはまる項目を3つまで選び、○を付けてください。

1. 活動資金の不足
2. 会員が足りない
3. 会員の高齢化
4. 後継者がいない
5. 寄付が集まらない
6. 社会的認知度が低い
7. 団体を PR する場・機会が少ない
8. 事業のマンネリ化
9. 活動場所の確保
10. 必要な備品・機材がない (パソコン、コピー機など)
11. 行政や民間、企業などが実施するボランティア活動への支援情報の入手が困難である
12. 必要な研修機会の不足
13. 同じ活動分野同士の情報交換や交流の機会が少ない
14. 他の分野との情報交換や交流の機会が少ない
15. 特に困っていることはない
16. その他 (具体的に)

運営上の課題としては、「会員の高齢化」(41.5%)が最も多く、次いで「会員が足りない」(31.2%)、「後継者がいない」(26.3%)であった。いずれも会員に関する課題が上位を占めていた。表 14-①②、**図 14 参照**

(表 14-① : 運営上の課題)

母数 224

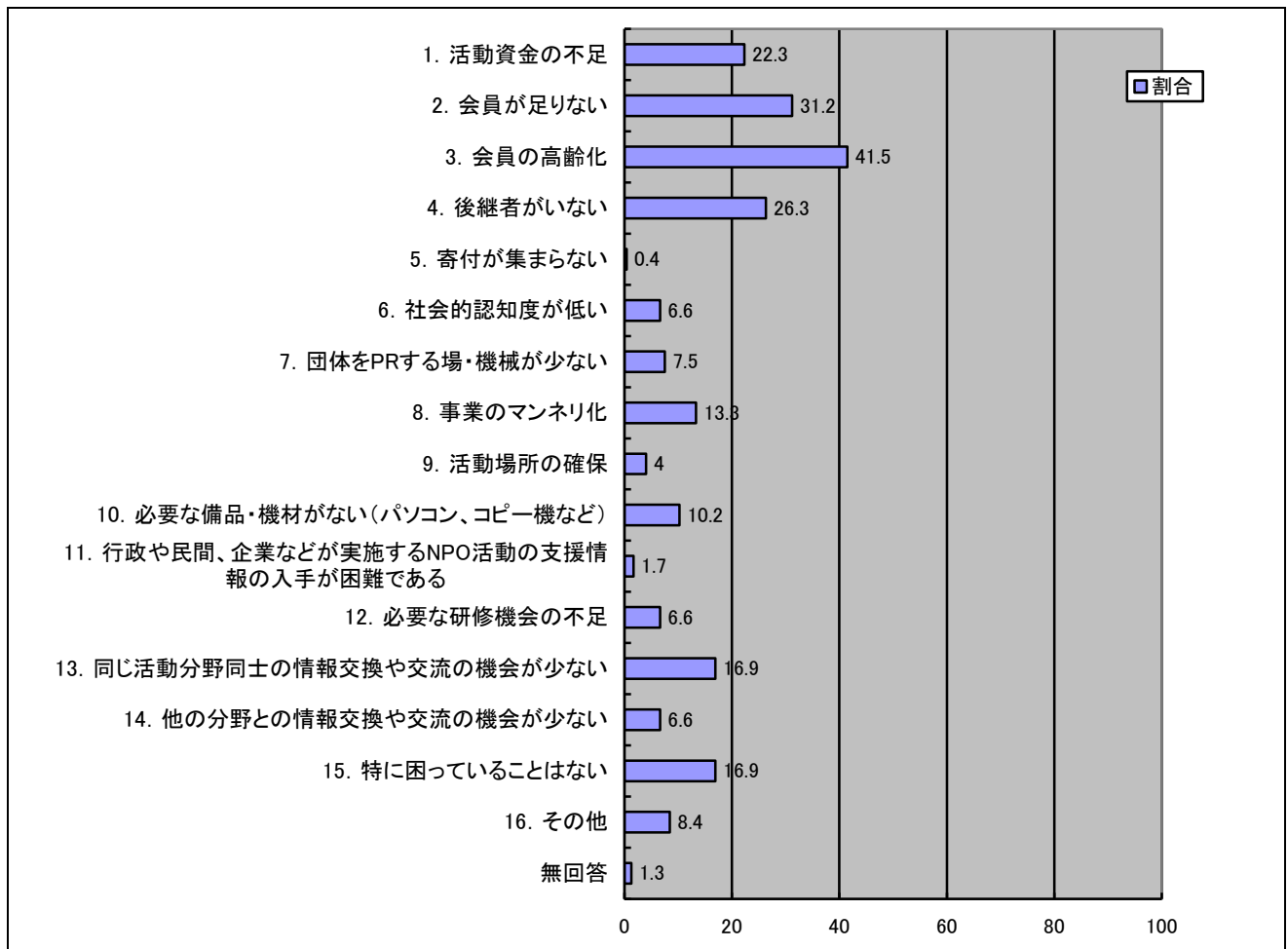
		件数	割合
1	活動資金の不足	50	22.3%
2	会員が足りない	70	31.2%
3	会員の高齢化	93	41.5%
4	後継者がいない	59	26.3%
5	寄付が集まらない	1	0.4%
6	社会的認知度が低い	15	6.6%
7	団体を PR する場・機会が少ない	17	7.5%
8	事業のマンネリ化	30	13.3%
9	活動場所の確保	9	4.0%

10	必要な備品・機材がない（パソコン、コピー機など）	23	10.2%
11	行政や民間、企業などが実施するボランティア活動の支援情報の入手が困難である	4	1.7%
12	必要な研修機会の不足	15	6.6%
13	同じ活動分野同士の情報交換や交流の機会が少ない	38	16.9%
14	他の分野との情報交換や交流の機会が少ない	15	6.6%
15	特に困っていることはない	38	16.9%
16	その他（※下記、記述参照）	19	8.4%
	無回答	3	1.3%

（表 14-②：運営上の課題）

「16 その他」の内容	
ボランティアが少ない	
企画力	
合併前は社協から、ほうきなどの提供があったが、現在はボランティア清掃のごみ袋だけ、市の環境課からあるだけで、清掃用具も各保育園の持ち出しになっている。	
活動裾野を広げるための地元出身の若年層会員の獲得	
現在テープに吹き込んでますが、CDへの音訳化が要求されています	
伴走できる会員が少ない。特に早い方の伴走者がいない	
大人の数が少ないので、行事の時に子供の安全管理などに不十分になりがち	
男性会員の参加の減少	
畑の整備費が足りていない	
リーダーが少ない（2名）	
作品の保管場所がない	
若年層の加入者を進めたいのですが、400円の車賃では仕事をもっている若い人にはなかなか加入してもらえません。	
市担当職員の協力不足	
今、使用中の点字プリンターは大変高額なので故障が心配です	
午後2時からのサークル学習会で仕事に就いている聴覚障害者の参加は望めず、直接交流する機会が非常に少ない	
若い会員がほしい	
若いボランティアの数がたりない。男性の利用者が少ない	
会員勧誘	

(図 14 : 運営上の課題)



Ⅲ 他団体との連携・協働についてお聞きます。

問 1) 連携・協働の実績について

(1) これまで、他団体と連携・協働した活動を行ったことがありますか。あてはまる項目 1 つに○をつけてください。

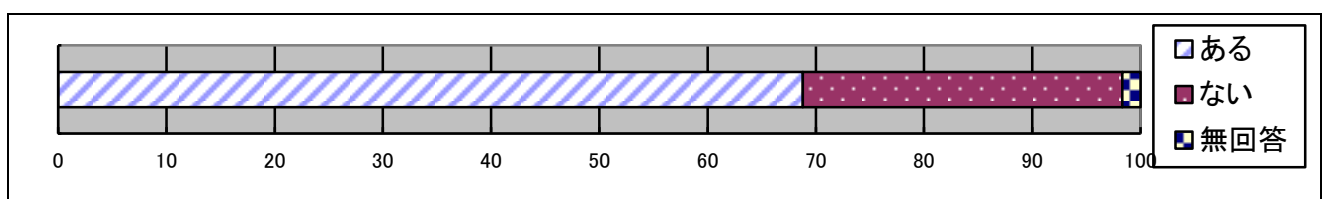
1. ある ⇒ (2) へ 2. ない ⇒ 問 2 へ

他団体との連携・協働の実績がある団体が約 7 割 (68.8%) であった。表 15、図 15 参照

(表 15 : 他団体との連携・協働の実績)

		件数	割合
1	ある	154	68.8%
2	ない	66	29.5%
	無回答	4	1.7%
合 計		224	100%

(図 15 : 他団体との連携・協働の実績)



(2) 上記で『ある』と回答した方のみにお聞きます。どのような団体と連携・協働しましたか。あてはまる項目に○を付けてください。複数回答可

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 同様の活動を行っているボランティア団体 | 2. 活動内容の異なるボランティア団体 |
| 3. NPO法人 | 4. 福祉施設 |
| 5. 自治会 | 6. 福祉関係団体 |
| 7. 企業 | 8. 行政 |
| 9. 学校・教育関係機関 | 10. 社会福祉協議会 |
| 11. その他（具体的に |) |

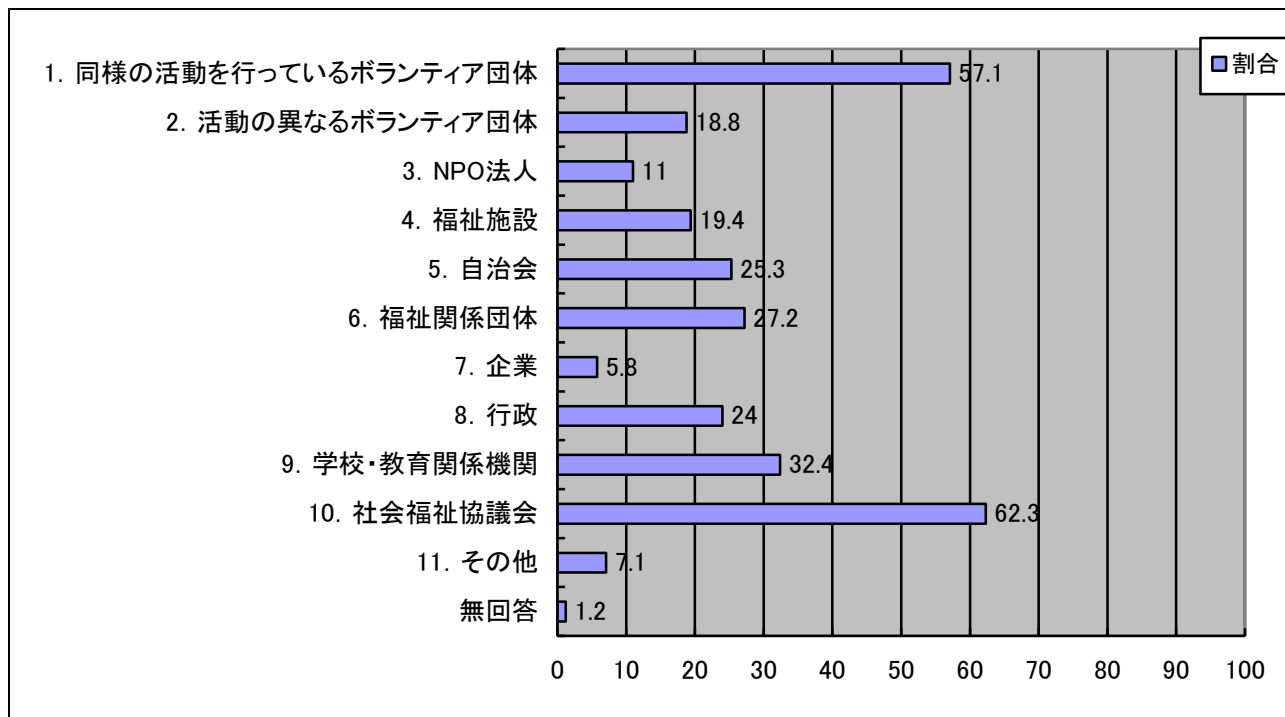
連携・協働相手としては、「社会福祉協議会」(62.3%)が最も多く、次いで「同様の活動を行っているボランティア団体」(57.1%)「学校・教育関係機関」(32.4%)であった。表 16、図 16 参照

(表 16 : 連携・協働相手)

母数 154

		件数	割合
1	同様の活動を行っているボランティア団体	88	57.1%
2	活動内容の異なるボランティア団体	29	18.8%
3	NPO法人	17	11.0%
4	福祉施設	30	19.4%
5	自治会	39	25.3%
6	福祉関係団体	42	27.2%
7	企業	9	5.8%
8	行政	37	24.0%
9	学校・教育関係機関	50	32.4%
10	社会福祉協議会	96	62.3%
11	その他	11	7.1%
	無回答	2	1.2%

(図 16 : 連携・協働相手)



問2) 連携・協働の必要性等について

(1) 貴団体が活動を進めていく上で他団体との連携・協働が必要だと思いませんか。あてはまる項目1つに○を付けてください。

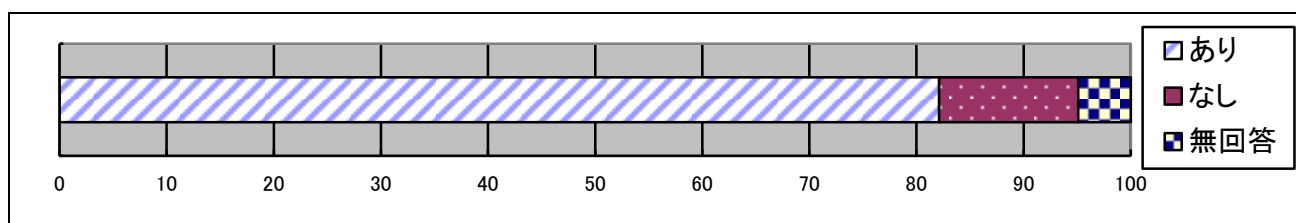
1. 必要あり ⇒ (2) (3) へ 2. 必要なし ⇒IV その他、自由意見 へ

他団体との連携・協働の必要性については、8割(82.1%)が必要ありとの回答であった。表17、図17参照

(表17: 連携・協働の必要性)

		件数	割合
1	あり	184	82.1%
2	なし	29	13.0%
	無回答	11	4.9%
合計		224	100%

(図17: 連携・協働の必要性)



(2) 上記で『必要あり』と回答した方のみにお聞きします。どのような団体と連携・協働が必要だと思いますか。あてはまる項目に○を付けてください。複数回答可

1. 同様の活動を行っているボランティア団体 2. 活動内容の異なるボランティア団体
 3. NPO法人 4. 福祉施設 5. 自治会 6. 福祉関係団体 7. 企業 8. 行政
 9. 学校・教育関係機関 10. 社会福祉協議会
 11. その他 (具体的に)

必要だと思われる連携・協働先としては、「同様の活動を行っているボランティア団体」(57.6%)が最も多く、次いで「社会福祉協議会」(54.8%)「学校・教育関係機関」(42.3%)と続いている。表18、図18参照

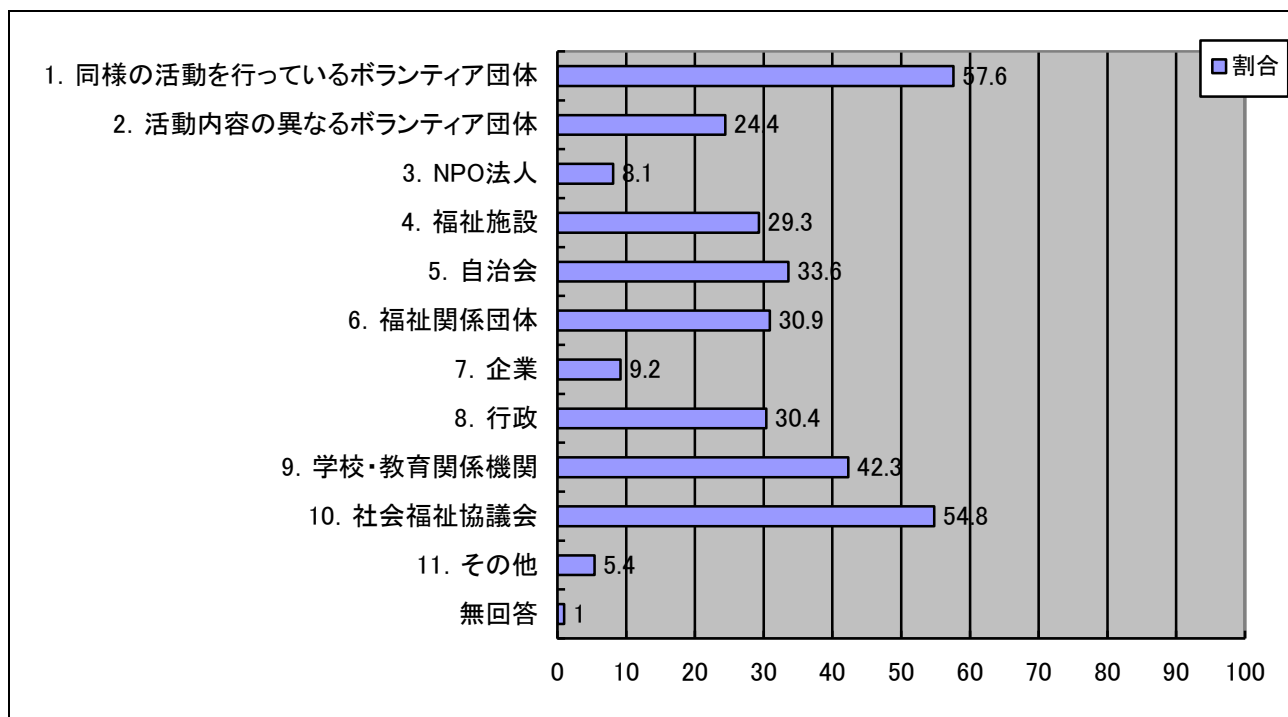
(表18: 必要な連携・協働相手)

母数 184

		件数	割合
1	同様の活動を行っているボランティア団体	106	57.6%
2	活動内容の異なるボランティア団体	45	24.4%
3	NPO法人	15	8.1%
4	福祉施設	54	29.3%
5	自治会	62	33.6%
6	福祉関係団体	57	30.9%
7	企業	17	9.2%
8	行政	56	30.4%
9	学校・教育関係機関	78	42.3%
10	社会福祉協議会	101	54.8%

11	その他	10	5.4%
	無回答	2	1.0%

(図 18: 必要な連携・協働先)



(3) 他団体との連携・協働を進めていく上で、支援してほしいと思うことは何ですか。あてはまる項目に○を付けてください。複数回答可

1. 場の提供支援（研修会や交流会、意見交換会等の開催）
2. 人材確保・育成支援（連携・協働をすすめるコーディネーター、人材ネットワーク）
3. 相談支援（相談窓口の充実）
4. 資金支援（活動及び運営等に必要な資金の充実）
5. その他（具体的に

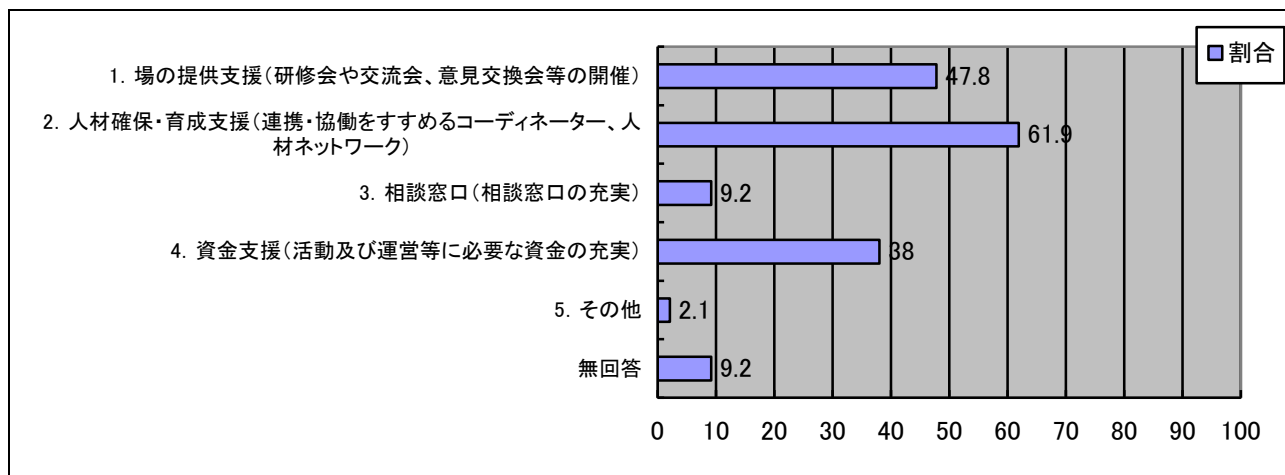
他団体との連携・協働を進めていく上で支援してほしいことは、「人材確保・育成支援（連携・協働をすすめるコーディネーター、人材ネットワーク）」(61.9%) が最も多く、次いで「場の提供支援（研修会や交流会、意見交換会等の開催）」(47.8%) 「資金支援（活動及び運営等に必要な資金の充実）」(38%) であった。表 19、図 19 参照

(表 19: 連携・協働に必要な支援)

母数 184

		件数	割合
1	場の提供支援（研修会や交流会、意見交換会等の開催）	88	47.8%
2	人材確保・育成支援（連携・協働をすすめるコーディネーター、人材ネットワーク）	114	61.9%
3	相談支援（相談窓口の充実）	17	9.2%
4	資金支援（活動及び運営等に必要な資金の充実）	70	38.0%
5	その他	4	2.1%
	無回答	17	9.2%

(図 19 : 連携・協働に必要な支援)



IV その他、自由意見

今後、貴団体の活動を発展・活性化させるために必要と思うことがありましたら、ご自由にお書きください。

(表 20)

	内 容
1	1. 役員のなり手が少ない。 2. 若い会員の入会が少ない。 3. 移動するときの車が欲しい
2	市民へのカウンセリングを実践するため、カウンセラー有資格者のボランティア団体ですが、第3土曜日の午前10:00~12:00は、一般の方にも参加できる勉強会をしています。カウンセリングの知識を深めてください。
3	地域で空いた民家を活用しながらのサロン活動は良い面もあれば備品類で足りないところもあり、より多くの方が活用するためには、テーブルやイス、もっと広い空間、送迎ボランティア等、人材面でも課題が山積みしている。
4	村には公立の図書館がなく、小中学校の図書室を利用しているため、土日の開放がなく、ほとんどが仕事を持っているメンバーの本選びに困っている。心の安全にもいい影響があると思うので、図書館が欲しいです。
5	村民の読書意欲向上。読書の必要性を伝える講演会など開きたいが資金がない。
6	高齢化し、会長のなり手が少ない。
7	団体の子会員が少なく、年々減少傾向にあります。参加人数も年々減っていて、行事が重なることもあり、幼稚園、小学生のみで参加したことも…。
8	花木の保護活動を行っている団体がなく、当団体のみであるため、多数の団体が欲しい！
9	若い世代の人たちが喜んで参加できるような講習会、調理実習等を開催することによって、活性化させるのではないだろうか。
10	活動を発展・活性化していくためには、活動計画書を作成して、できるだけ多くの人に見てもらい、共感して活動を支援してもらえらるようしていく事です。
11	サークルがあることのPRをすること。インターネットなどでの情報公開。
12	現在、皆がボランティアするときの交通費、光熱費、弁当代、その他の必要なものは個人持ち出しなので活動も大変ですが、会費として集めるには少人数なので、せめて助成金があれば人数も増やせると思う。周囲からみれば余裕のあるメンバーだと思われる。つらい時

	もありますが、楽しいこともあります。
13	ニーズの調査（「声の広報おきなわ」があることを知らない障がい者がいますので、行政で調べてほしい）知らせて欲しい。
14	若い会員（40代・50代）の確保、活動資金の確保（現在3ヵ年、那覇市役所の助成金を受けている。今後はどうなるか未定）、聴覚障がいの方々とも交流し楽しく踊りたい。
15	会員のスキルアップを図るために、各種研修会への参加や、自主研修会の開催が必要と思う。また、そのための活動資金も確保する必要があると思う。（助成金等）
16	活動の拠点として、現在、公民館を有料で借用しておりますが、清掃活動並びに心の学びを多くの方々に広げ、お知らせしたい。生涯学習の場を各学校の空き教室等を朝4:00から7:00まで借用させて頂けることにより、社会貢献が出来ると思います。
17	参加するボランティアの意識向上。①継続することの大切さ、②相手を思いやることの大切さ（相手の立場にたったの発言や行動）
18	ボランティアの高齢化の為、後継者の入会。現在4グループ。会の活動資金不足（補助金の増額）。楽しみの年は、視察も寄付金等を加えて何とか賄う状態だ。
19	サークルの高齢化が進んでおり、若い人々の育成が必要である。また、手話サークルですが、地域福祉に対する意識もあるサークルですので、積極的に地域福祉活動の担い手として幅広い活動を通して若いボランティア活動者の推進に努めたいと努力しているところです。
20	元気でボケないお年寄りを目指して頭の活性化を計るために必要ないろいろな楽器があればいいのと思っています。
21	私たち団体は創立24年となりました。退職教員の方が多かったのですが、80歳前後となり退会した方、意識が高く後輩の指導に熱心な方々と活躍して下さっています。しかし、災害救助や街頭に立ってする行事はきつそうです。若年層の強化が悩みの種です。
22	ボランティア団体の活動内容等の紹介を、インターネットや冊子などでお願いしたいと思います。
23	沖縄市の空き地を貸していただき整地して4年目に入りました。会員も3倍に増え、100人以上の会員となりました。お陰様でカレーパーティーの際はジャガイモ堀りの盛り上がりは大人も子どもも歓声が出て楽しみな一日となっています。サークルを支えてくれている方々に感謝です。
24	周知活動
25	今現在、私たちのサークルの方向性は正しいと思っています。あせらず、ゆっくりそれぞれが自分の時間で無理せず参加し、楽しく続ける。継続は力なり。
26	新規の会員と利用者の確保
27	今後、行政や社協などの指導・支援が必要
28	音楽・文学を通して活動をしています。今年の3月は八重山の老人ホーム等で慰問演奏に行きました、特に音楽（カラオケ・民謡）を通していろいろな場所にて支援活動をしていきたいです。ほとんど活動費は実費です。
29	老人クラブに加入していない高齢者（特に一人暮らし）を行事に参加させること。
30	若い年齢層の皆さんの参加。
31	サークルではなく、スタジオ（フラスタジオ）を自分の地域でもあれば人数も若い会員も増えると思いますので交渉中です。
32	サロン活動の数を多くしていく事がミニデイサービスの活性化に必要だと思います。そのた

	めには活動資金が今までより多く必要となります。
33	もっと私たちの行っている事についてボランティアをやっていることも含めて真剣に考えている方達がまだいないし、まわりも理解してくれない方達が多い。できればこの機会に1人でもいれたいと願っています。
34	仕事上お世話になっている区のためにいろいろお手伝いさせてもらっています、地区の方との交流はとても楽しいです。
35	市町村合併によってそれまで各地域にあったボランティア活動が社会から見えづらくなっている。無理をして現在の市全域に広げることなくとも。社会福祉協議会の広報誌等で取り上げたり、清掃用具の助成などがあれば助かる。
36	個人のスキルアップを図る講習会等を開いてほしい。
37	奉仕活動としてやっています。どこの何のために活動する事をはっきりします。共立素行。
38	行政からの情報提供（守秘義務を厳守）、会員確保のため行政からの働きかけ、活動施設や資料等の営利充実。
39	沖縄県内での組織だった伴走活動は、那覇市と石垣市のみです、県内各地に点在する視覚障がいランナーを支援する伴走拠点作りが大きな課題です。そのためには、地域の福祉行政やランニングサークル等との協働が不可欠です。
40	認知度をあげるための広報活動が不可欠、活動がマンネリにならないようにしていきたい。
41	会員メンバーはほとんどシニア（60代～80代）ですので、健康第一。サークル活動で元気になり、人生豊かに、心豊かに活動していければと思っています。
42	「浦添市ボランティア連絡協議会」の設立により、会長をはじめ事務局が私たち団体のお世話をしてくれ、又、浦添市社協の職員の皆さんが色々手助けをしてくるので、本当に毎回楽しく充実したボランティア活動を致しております。
43	現在、プレハブの中での活動をしており、外の騒音機とかが気になり、録音に支障をきたす時があり、防音装置がされた建物の中の場所が与えられたらと希望する。
44	手話技術を向上させて、聴覚障害者との理解を深めるとともに、地域の福祉活動へ協力していく気持ちも持続すること。
45	人材確保のため、音訳講習会を開催して、音訳のことをたくさんの人に知らせたい。そのためには社協の支援が必要である。
46	地域にボランティア活動の必要を感じ、平成16年4月に結成。最初は踊り、レクの依頼だけでしたが、ここ3～4年前からは手工芸教室の依頼も増え、2か所の施設へ月に1回～2回と訪問し交流しておりますが、その施設から毎週との要望もあります。しかし、その手工芸の出来る会員が少なく、参加することができておりません。その声に応えたいのですが、手工芸教室の場所と資金がない。
47	活動範囲が近隣市町村との連携もあり、若年団員、男性団員の入団、車の運転ができる方の募集に力を入れていきたい。
48	創立当時からの乳児院訪問の会員が抜けたら、送迎だけに切り替え充実させたい。（高齢のため）
49	今年で30年間続けられたことに対し、会員のチームワークに感謝しながら、今までにない充実感を感じています。また、福祉施設でボランティア活動させていただくことに対し、自分たちも向上することができたことに大きな喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。いつまで続けられるかわかりませんが、これからも頑張りたいと思います。

50	“青少年に母の愛を”をモットーに活動をしているが、役員のなり手が少ない。交通費やお手当の支給をアップすると良いと思う。メンバーは協力的である。どのような活動を展開すればメンバーにとってよいのか模索中。コーディネーターのアドバイスが必要だと思う。他地区との交流も必要ではないかと思う。
51	人材確保（会員）、運営費必要。
52	会員が少ないから、もっと増やして、これからも歌を通して各地の老人ホーム、福祉施設へのボランティア活動を続けていきます。
53	私どもの会は8年間活動してきましたが、その間、利用者、ボランティアともども本音で話し合い、利用者、ボランティアの絆をこえて会を楽しめるようになっていきます。いつでもだれでも迎え入れる、入って来られるムードづくりかなと考えていますが、なかなか思うようなアイデアが生まれません。
54	石垣島内だけでは学習等にも限度があり、本当へ研修に行くには自己負担が多く、講師に来島してもらえよう、活動費の充実が必要と思われる。
55	依存症者の回復過程における他機関との連携をより一層深める（重複障害者に対する支援、及び、他施設との連携）。社会復帰後の支援と連携。地域社会への貢献。
56	いろいろな施設や学校等へ活動している内容を紹介できるチャンスがあればと思っています。
57	活動場所が自治会の2階を利用しているため、体力的に無理な方が年々多くなって、対象者が少なくなっているのが心配。ボランティアの方々の意識（役割分担）づくりをしっかりとしたい。実施場所にエレベーターとかスロープとかも必要感じます。
58	ボランティアの育成。
59	指導者による講習会を持ちたい。
60	若いボランティアの育成。
61	行政との連携。行政には積極的にNPOと連携する姿勢を示していただけるとありがたいです。
63	「活動資金があれば！」という壁にぶつかるが、無理をしてパンクするようなことにはしない。
64	共通の認識と目標。
65	一番の支援願ひでは、役員のなり手が少ないということです。会員の高齢化により若い方をさがしているが、役員のなり手がいない状況。更生保護という言葉でわかりづらく意味がとりきれない。説明のできる場を与えられたらと思う。
66	民踊ではいつでもどこでも誰とでも楽しく踊れ、民踊の素晴らしさを共有し地域に根ざした活動を続けていくことで地域の活性化につなげて行きたい。
67	社協で行っているボランティア団体への助成金について、助成金の正しい使い方を詳しく定義して広報してほしい。
68	伊江村の地域性を学びながら取り組んでいます。他地域の様子も情報としてもらえると、とても心強いです。県ボラセンの皆さん、資料作り大変だと思いますが、これからも宜しくお願いします。
69	研修会や交流会等の活動の為には、資金支援が必要である。
70	子どもたちや高齢者が地域の歌や踊りを口ずさんだり、カチャーシー等すぐ踊れるようになってもらいたい。

71	若い人材が沢山きてほしい。
72	認知度 UP のための支援。他のボランティア団体等の情報
73	社協の事業の1つとして、学校担当先生は2〜3年で変わることから、学校側と密に連携や関係づくりを継続していきたい。
74	人材不足
75	もっと活動の幅をもたせたいので、手話、音読など勉強が必要。
76	現在、依頼件数が多く、コーディネーターが対応に苦慮している状況。会の活動を活性化させるためには、コーディネーターの活動費（人件費）の安定化が必要だと思います。またサポーター会員も不足しがちなので、広報活動も強化する必要があると思います。
77	若い人たちの技術・感性の必要性は欠かせない。
78	1. 団体の活動をアピール出来る場がもっとあればと思う。 2. 魅力ある活動をし、会員を増やしたい。
79	これからCD化へ向けて、全員で取り組んでいかなければ、なりません。そのため学ぶ機会を多数作っていかねばと思っています。
80	活動メンバーの募集をして、会員の倍増を図る。・活動内容を充実させる。
81	次世代の若い人たちのボランティア参加者が福祉に関心をもち参加してほしい！
82	・男性を参加させるための啓発活動・未利用者の参加充実・備品の充実 ・若いボランティアの確保・バス借用するときの運転手の確保が難しい。町または社協などで人材のリストや確保しやすいようにしてほしい。
83	ボランティアの高齢化が気になる。若い人たちのボランティアが欲しい。
84	高齢者の集いの中で地域との交流が増え、特に男性会員に参加してくれればもっと活性化出来ると思うが、その都度募集をかけるがなかなか集まらない。
85	当団体にはなかなか新しく入る人は少ないが、いったん入ると「同年代の人が多いため、楽しく活動できる」と言ってやめる人はほとんどいない状況である。従っていかにして参加者を増やすかが課題。
86	地域社会の協力支援が必要。（人材、資金援助）
87	ボランティアの高齢化の為、人員確保がきびしい。責任者の負担大。
88	会員の高齢化、会員が足りない、また後継者がいない。
89	活動資金の不足、会員をもう少し増やし、今までと違った活動の仕方を考えていくこと。活動内容の充実、どの様な活動をしたらいいか分からない。
90	既成団体や行政が行わないシンポジウム、セミナー等、当事者支援に力を入れているが、助成金を取らないと何一つ実施できないので継続して資金助成してもらいたい。貧困家庭が主な支援対象なので、会費や受講料を徴収することが困難なので、足りないときは個人で支出している。
91	ここ数年、活動に興味を持って進んで加入するメンバーもいることを誇りに思っています。月一回の定例会がストレス解消の場にもなっているようで、そのことが今年で継続18年につながっていると思います。
92	会員が高齢の方が多く、会委員不足なので、自治会・老人クラブ・婦人会・社協とも今まで以上に連携し、若手人材の確保と会員増員を目指す。 また近隣市町村で同じ配食ボランティアを行っている団体との情報交換会・交流会の実施。
93	活動者のほとんどが60歳以上なので、若い人の人材確保が必要。

94	現在、区長・書記・老人クラブ・民生委員だけのボランティアメンバーなので、もっと若い人たちにも地域でどのような活動をやっているかを知ってもらい、ボランティア活動に参加をしてほしい。
95	<ul style="list-style-type: none"> ・食の自立が必要な高齢者で定期見守りをするだけじゃなくて、その日の献立のメニューなどが分かればなお、コミュニケーションが取れると思いますか？ ・活動資金が0の状態なのでなかなか活動がしにくい。
96	現在小地域活動しているボランティアは殆ど老人クラブの皆様なので、今後婦人会や各種団体が取り組める場で何かの形を変えて組み入れたいと思う。
97	組織が衰退していることを改善したい。
98	街の開発が進み、もともと住んでいた方が他地域に移動されたが、逆に新しく住民となった方々が一緒に活動できる団体にするべき。
99	高齢化が進み、ミニデイも少なくなってきました。若い人たちを進めたいと思うのですが、なかなかです。
100	若い方が加入してくれることが必要である。
101	シルバーボランティアだけでなく、ゲームや踊りをやってくれるボランティアの方がいれば楽しく過ごせると思います。
102	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニデイサービスへの参加に従来の方々である。この制度は各字の公民館を活用し親睦を深め生きがいを見つけることが目的である。その目的を達成させる為、に行政当局はさらなる広報が必要である。 ・ミニデイサービスを発展及び充実に次の項目を提案する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 他字と交流ミニデイサービス 2. 他市町村の同活動先進地視察研修
103	少々マンネリ化になっていますが、ボランティア間で話し合い検討したいと思っておりますが、社協からのいろいろ情報を教えてほしいです。 高齢者の方々の為の情報についてお願い致します。
104	高齢者の笑顔になるレク指導
105	地域の活性化
106	<ul style="list-style-type: none"> ・他のサークル活動にお金を出していく人がいる。（例えばカラオケ、水泳、運動）遊びが多様化している面もある。 ・他人との交流を嫌い個人の趣味になることが多い。 ・自分はまだ老人会ではない（65歳）という人もいる。
107	動員方法
108	毎回活動終了後、ボランティアの反省会を持ち、次のボランティア活動に活かしている。
109	後継者育成が必要だと思います。
110	常に声を掛け合い、家でひきこもり等を減らし、みんなで活動を楽しく、又楽しい活動になるよう協力しあう。
111	私たちは、23人参加で行っておりますが、常に楽しくやっております。出来ればもっと人員を増やすことを希望します。
112	ミニデイサービス事業の周知
113	行政のサービスの充実
114	当会は年々集まりが多くなっていますが、今後は内容も色々取り入れて会員みんなが喜んで

	出席してくださるよう頑張っていきます。
115	①町民の皆さんにもっと活動をPRし、会員増を目指したい。また行政や社協の広報誌にも活動を掲載してもらえよう協力を仰ぐ。 ②手話講座（勉強会）を開催し、会員の研鑽に励みたい。 ③近隣市町村の手話サークルとの交流並びに町内のボランティア団体との情報交換・交流会の実施。
116	視力障害のために、送迎及び機転がきくサポーターが欲しい。
117	月1回第2水曜日社会福祉センター調理場にて高齢者一人暮らしの弁当を調理しています。安心安全清潔感を保っていますが、少しおねだりしてエプロンが欲しいです。雨の日も風の日も会員さん明るく笑顔で活動しております。マイカー利用、バス利用、タクシー利用してきます。
118	足の悪い人の為、車いすなどの備品、カラオケ
119	自由に使える資金が必要。
120	リーダーの養成が大切と思います。 しかし養成するのが難しい。まとめ役をお願いすると「私ではできない」と引いてしまう。積極的な人材が欲しいです。手伝いは積極的にできるが、まとめ役となると遠慮がちになる。

※自由記述の中で、個人名や団体名など固有名詞が入った記述については、掲載いたしていません。